

平成 23・24 年度「京の未来創造校」実績報告書（1 年次）

1 学校名等

学 校 名	与謝野町立 桑飼小学校							校長名	東垣 茂男
研 究 主 題	保護者・地域と協働した教育システムの構築と特色を活かした教育の展開 (故郷に誇りと夢ふくらます桑飼ならではの『協育』)								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	合 計	教職員数
学 級 数	1	1	1	1	1	1	1	1	14
児 童 生 徒 数	25	15	20	13	23	16	2	114	※校長・教頭を含む

2 研究校の概要

本校は京都府の北部、鬼（酒呑童子）の伝説で名高い大江山の麓にある全校児童 114 名の小規模校である。校区には古墳時代における丹後王国論が提唱されるような巨大古墳があり、遺跡の宝庫でもある。歴史と伝統、豊かな自然に囲まれ、地域や保護者の教育への関心も高く、協力的である。

本校は、平成 10・11 年度に京都府の防災教育研究推進校の指定を受け、「地域協力者会議」を設置し、地域連携のパイプ役として学校運営にも大きな役割を果たしてきた。また、平成 19・20 年度文科省指定、コミュニティ・スクール調査研究校の指定を受け、今までの組織と成果を引き継ぎながら「いきいき桑飼コミュニティ推進委員会」を設置し、「保護者・地域住民のニーズを活かした学校運営と連携・支援の在り方」を追究する中で、特に学習や生活・安全への支援等整備が図られ大きな成果が見られた。

本研究では、コミュニティ・スクール指定校の成果を活かし、更に PTA や地域関係団体と連携（参画を重視）して、双方向による安定的・持続的な協育のシステム（仕組みづくり）を整え故郷に誇りと夢ふくらます桑飼ならではの特色を活かした教育を展開する中で、(京都式の) コミュニティ・スクールの在り方を追究していきたい。

3 研究の成果

(1) 地域資源や学習環境をいっそう活用していくことができた

地域の素材・人材を活かしたクラブ活動への支援

- ・ 地域の物づくり名人から学ぶ…工芸、竹細工、絵手紙など
- ・ 地域の歴史・自然を学ぶ…古墳、遺跡発掘体験、昔の校区
- ・ 地域の自然、環境に学ぶ…蛭とめだかの棲む里づくり
- ・ 地域の伝統食や「食」について学ぶ…食生活改善推進員から
- ・ ニュースポーツ（グラウンド・ゴルフ）を学ぶ、交流する

(2) 教科・総合的な学習の時間を広げ深めることができた

米づくりと伝統に学ぶ

- ・ 2、5 年生による田植え、稲刈り体験…農業関係者等の支援
- ・ 収穫したお米で「丹後ばら寿司」づくり（5 年）…地域の老人会支援
- ・ 収穫した稲穂（藁）で「しめ縄」づくり（2 年）…地域の名人より

地域（特産品）から学ぶ

- ・ 「丹後ちりめん」養蚕、ちりめん織り体験（3 年）…関係者支援
- ・ 「与謝のころ柿」干し柿づくり体験（2 年）…関係者支援
- ・ 地域の歴史探索（6 年）古墳公園、遺跡（古墳群）…関係者支援
- ・ 戦争の頃の歴史（6 年）大江山ニッケル鉱山（外国人捕虜）…関係団体





クラブでお世話になった地域の方へ出したお礼の手紙より

歴史クラブでお世話になりました。年表を作って説明していただいたので社会科の歴史学習が理解しやすくなりました。古墳について教えていただき、自分が今いるところや周りにも、とにかく桑飼には古墳がたくさんあったり、遺跡が残っていたりしていることが分かり、驚きました。「私はこんなに歴史のあるすばらしいところに住んでいるんだ」と少し誇りに思えました。歴史について学べたし、この地域に関心を今まで以上に持つことができました。ありがとうございました。【6年 女子】

ものつくりクラブでかべかけとブローチを教えていただきありがとうございました。先生が優しく教えてくださったので最後まできれいに仕上げる事ができてうれしかったです。細かなところをやすりでけずるのは難しかったですが手伝っていただいたのでうまくできました。桑飼にある材料でこんなかわいい作品ができることが分かったので、家でも作りたいなと思いました。【5年 女子】



(3) 学校の方針や教育活動などを家庭や地域に説明し、理解と協力が得られた
地域をテーマにしたPTA親子活動（歴史・自然ガイドによる支援）

- ・ 大江山探検（3年）…大江山の自然（植物、鉱物、生き物、名所）
- ・ 大江山と校区の探索（5年）…大江山山麓の自然探索と飯盒炊さん
- ・ 古墳公園や校区の名所巡り（1・2年）…土笛などの作品づくり

地域と共に進める防犯訓練

- ・ 「宮津警察」「スクールガードリーダー」「いきいき桑飼コミュニティ」「見守り隊」「防犯推進委員」「子ども110番のいえ」「民生児童委員」「桑飼保育園」の協力で、不審者侵入への対応を中心とした訓練と講話（宮津警察）、関係者の紹介・お礼、付き添い下校、子ども110番のいえへの訪問等を実施した。

(4) 学校から地域への貢献を進めることができた

- ・ 地域におけるクリーン作戦（清掃活動）への参加…行政区（隣組）での一斉活動に小学生が参加
- ・ 桑飼小校区でのグラウンド・ゴルフ親睦大会に参加…子ども愛護会及び桑飼小6年生チーム参加
- ・ 公民館活動等への参加…公民館や区の事業への参加（児童、教師）、文化祭への出品
- ・ 「ひまわり植え」（地域の取組；町の花・産品づくりへの参加協力）
ひまわり植えとたねとり、ひまわりの油取りとお菓子作り体験
- ・ 学校で取り組んでいる「花いっぱい運動」を地域へ広げた

○ 桑飼小校区は、古い歴史と伝統、豊かな自然に囲まれ「誇るべき故郷」であること、そしてこの桑飼を大切にしたいという意識が芽生えてきた。（学習後の感想）

○ 地域の教育資源の更なる活用により、人とのつながりが深まり、次への学習の展開へと広がってきた。児童は、児童評価の中で90%以上が「地域の人に教えてもらったり、地域の施設で体験したりする勉強は楽しい」と答えている。また、96%の保護者が「いきいき桑飼コミュニティの活動



は子ども達の豊かな体験や幅広い学習に役立っている」「学校と地域のつながりが強くなってきている」と答えている。

- 地域での様々な行事や取組に参加することによって、地域の様子や願い等がわかる第一歩になった。地域から当てにされ、大切にされる中で、地域に支えられ包み込まれているという感覚が得られるのではないかと。出会いと交流、互いに貢献し合う関係づくりが一步進んだ。花いっぱい運動」やクリーン作戦の活動は一定の評価があった。(地域関係者評価アンケートより)

4 主な研究活動

(1) 合同研修

8月30日に京都府立大学 築山 崇教授に「地域と学校、双方向の協働教育のあり方」という演題で講演をしていただいた。参加者は「いきいき桑飼コミュニティ」委員(8人)指導主事(3人:府2町1)保育園(1人)教職員(12人)であった。講演の後2つの分散会に別れて、これまでの取り組みの成果や課題、これからの活動について話し合った。



(2) 研究授業

11月30日に3年生「総合的な学習の時間」の研究授業をした。単元名は「町のシンボル、大江山」。自分たちが住んでいる場所から見える大江山に目を向け、自分たちで学習課題を見つけ、1学期に経験した課題解決方法の中から選択して、課題解決をグループで行う。大江山を選んだ理由は、国定公園に指定されるくらい自然豊かな山であり、昔から鬼伝説や短歌に詠まれるくらい人々に愛され親しまれてきた山が自分たちの故郷にあることを知ってほしい。また、将来、故郷を離れたとき、大江山を誇りに思い、ふるさとに愛着を持ってほしいという担任の強い思いが込められた単元である。導入の時間であったので、大江山の写真などを使って、興味・関心を持たせ、これからの学習内容を知り、意欲と見通しが持てるように工夫された授業であった。指導主事や地域コミュニティの委員にも参観していただくとともに、事後研究会にも参加していただいた。



調べたいこととその理由(その後の授業で児童が決めたテーマ)

大江山伝説: 鬼の岩屋があるので、鬼はいたかもしれないから調べたい。

: お風呂でお父さんが鬼の話をしてくれたから、もっと知りたい。

大江山のイベント: 大江山登山の行事におじいちゃんと参加したから、もっとイベントがあるか調べたい。

大江山の植物: 珍しい花や木があるとうれしいから知りたい。

: きれいに紅葉している木が多いので名前を知りたい。

5 研究成果の普及

管内や本町の校長会、教務主任会等でレポート発表し、ねらいや活動内容について伝え、家庭・地域連携の重要性や他校でも取り組み可能な内容について報告した。また、学校便り等に研究実践に関する事柄を詳しく掲載したり、ホームページで発信したりした。

6 2年次の研究構想

- (1) 「いきいき桑飼コミュニティ」をはじめとする地域関係者（団体）との一層の連携と協育の推進。学校づくりは地域づくりの視点から双方向の活動支援や学び合いを大切にしたい取組、特に地域に根付き貢献する活動の推進

- ・来年度は、夏休みラジオ体操を愛護会だけでなく地域老人会等に呼びかけ地域ぐるみで実施する予定。
- ・地域の支援者が子ども達とふれあい、自分の知識や技能を伝えることで生きがいや自己実現を感じる取組を進める。
- ・地区（公民館）活動との連携を深める。愛護会活動の充実を図る。

- (2) 家庭及びP T Aの参画協働の推進（組織運営、活動の広がりを目指して）

学校の最も身近なパートナーであるP T A〔家庭〕の教育力を引き出し、主体的に事業に参画していただく中で、教育効果を高めると共に協働的な教育システムを構築する。

- ・P T A役員の企画・運営への参画・活用の拡大
- ・P T A会員への積極的な働きかけ（支援活動中心に）
支援を願う活動への依頼・呼びかけを年度当初及び随時必要に応じて行う。
- ・研究活動への協力（P T A親子行事等）

- (3) 自らの生き方を見つめると共に、故郷に誇りをもち故郷に貢献できる児童を育成する授業や取組の積極的な推進

地域を「触れるだけ」「見るだけ」「調査をして発表をするレベル」の対象としてとらえるのではなく、地域の方々の思いや願いを受け止めつつ自分の生き方や地域の在り様、地域貢献や地域作りまで見通した総合的な学習の時間等のカリキュラムづくりや取組を推進する。

また、道徳と関連づけ価値の内面化、道徳的実践力をつける。体験的な学習活動や道徳の時間を特別活動や教科・「総合」等横断的に位置付ける。

- ※ ふるさとに愛着と誇りを持った児童を育てることが、将来的に故郷を背負って立つ人材を育成し、地域を大切に（貢献する）ことにつながると考える。

- (4) 学校・家庭・地域社会による連携協働の安定的・持続的な「仕組み」づくり

「いきいき桑飼コミュニティ推進委員会」の組織構成を見直し、参画を重視した運営、活動にしていく。そのため、学校担当者（事務局）や推進委員会の役員及び委員の役割を明確にするとともに、主体的な動きが取れるよう会議の設定や連携の仕方、活動の在り方等を追究していく。

その第一歩として、地域の人々と目標（「子ども像」「こんな大人に」）を設定・共有化する。それが目標達成に向けた全ての活動や振り返りの軸となると考える。

- (5) 中学校、保育園、社会教育（体育）等との連携の深化

小学校という枠を超えた学びの視点で教育活動や教育環境を捉え直し、地域への広がりや校種や世代を超えた交流や学び合いができる機会を設定することで、児童を豊かにはぐくむ。（保・幼・中学校との連携、社会教育・体育、地域の公民館活動等との連携）